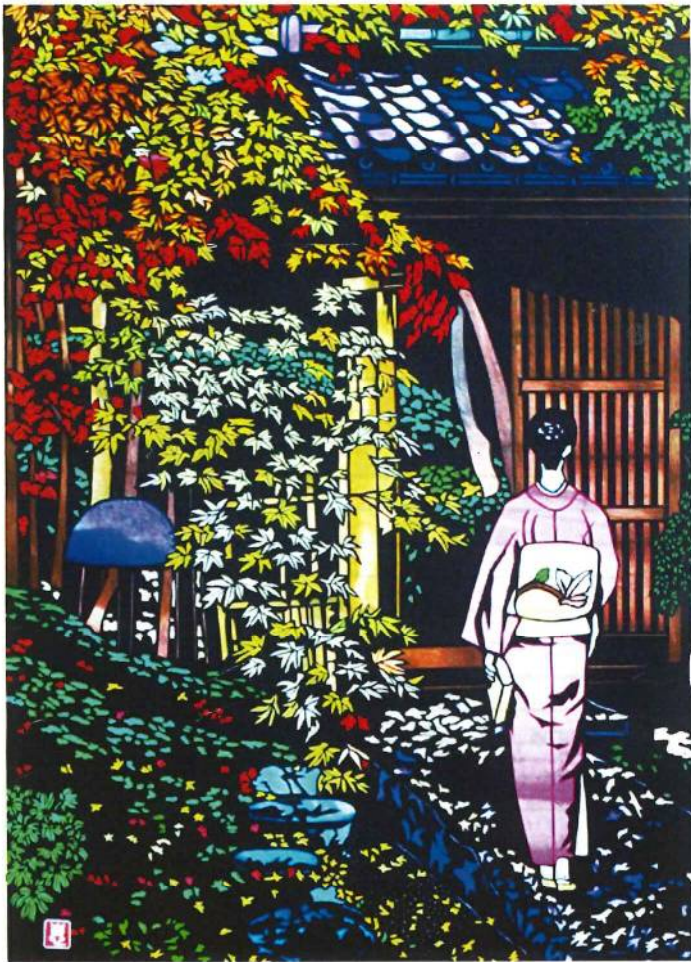


切り絵新聞

第80号【会報紙技改称】全国切り絵同好会 発行責任者 後藤伸行

平成30年 1月 5日
 本部 群馬県利根郡川場村
 日本切り絵百景館内
 電話 0278~52~2022
 FAX 0278~52~2181



加藤 恵美子

(茨城県ひたちなか市)

切り絵美術の花開く！第六回切り絵大河コンクール

第六回切り絵大河コンクール審査会は、十二月九日、日本切り絵百景館において開催された。

八十八点の応募作品の中から、大賞に茨城県ひたちなか市の加藤恵美子氏の「晩秋の装」、準賞に埼玉県さいたま市の山田積昭氏の「暑い日の参詣」が優秀賞には群馬県伊勢崎市の中山光子氏、茨城県小美玉市の滑川秀

第六回 切り絵大河コンクール

大賞 「晩秋の装い」

子氏、茨城県ひたちなか市の星野三郎氏、富山県小矢部市の前田律枝氏、富山県小矢部市の森田洋子氏が受賞した。入選作品には三十七点が選ばれ、それぞれ創作の成果を輝かせた。

明星賞(六回入選)には

十五氏

きり絵大河コンクールは、今回で六回を重ねたが、作品のサイズは二十号〜五十号と、制作に費やすエネルギーは、大変なものがあります。写真を拡大してそのまま転写して下絵を描くことは構図に破たんをきたす原因となります。ましてや自分のイメージを絵画として成立させることは不可能といえましょう。五十号〜百号などの絵画の中で存在感をしめすために、切り絵の作者はどうしても切り絵大河コンクールで力を磨き蓄える必要があるとの認識から、六回の大河コンクールの入選者に「切り絵明星賞」をおくることになった次第です。コンクールの審査に当たった四氏と合わせて十五氏がこの賞を受賞することになりました。

平成三十年度【明星賞】 受賞者(十五名)

名取 政一郎	須貝 京子
加藤 恵美子	相澤 美智子
畑 徳江	渡辺 妥夫
平 章弘	森 愛子
滑川 秀子	松本 正一
江田 雅子	河江 文比呂
星野 三郎	後藤 伸行
水谷 勇	

第二十七回全国切り絵同好会定期総会終わる！

第二十七回定期総会は十月十日午前十一時より

高崎市の弥助館において開催催された

事業計画等 あらましを、おつたえいたします。

(一) 会報の発行

切り絵新聞の発行 一月、七月

切り絵のしおり 九月

(二) コンクールの開催

第二十七回全国切り絵コンクール(十二号まで)

出品受付 五月二十日(日)～五月三十一日(木)

第七回切り絵大河コンクール(二十号～五十号)

出品受付 十一月二十五日(日)～十一月三十日(金)

(三) フェスティバル

○百景館オープニング フェスティバル

四月十四日(土)

表彰 明星賞(六回入選)

ライブコンサート

○第二十七回切り絵フェスティバル 九月一日(土)

第二十七回全国切り絵コンクール表彰

ライブコンサート

(四) 作品展

(一) 第六回切り絵大河コンクール入選展

四月十四(土)～六月十八日

(二) 大和路の抒情【後藤伸行切り絵展】

六月二十日(水)～八月二十日(月)

(三) 第二十七回全国切り絵コンクール入選展

八月二十二日(水)～十一月二十三(祝)

二輝会展併設

(五) 三十年度コンクール作品集の発行

八月～九月

(六) 選任された役員は次のとおりです。(任期)二年

会長 後藤 伸行 (群馬県川場村)

副会長 河江 文比呂 (東京都大田区)

森 愛子 (東京都武蔵村ま市)

松本 正一 (群馬県高崎市)

理事 師範、準師範

会計監査 戸田幸子(埼玉県小川町)

山崎育子(東京都瑞穂町)

(七) 二十九年年度 資格認定

師範 江田 雅子 (岡山県津山市)

師範 中山 光子 (群馬県伊勢崎市)

講師 広川 司 (新潟県新潟市)

講師 都築 ひろみ (埼玉県熊谷市)

講師 小田部 邦子 (茨城県城里町)

講師 都所 壮 (さ玉県毛呂山町)

講師 森田 洋子 (富山県小矢部市)

講師 前田 律枝 (富山県小矢部市)

講師 奈良岡和美 (富山県高岡市)

修士 三宅 亮子 (北海道函館市)

修士 生井 規友 (埼玉県さいたま市)

修士 金谷 真佐美 (富山県小矢部市)

修士 黒星 和枝 (埼玉県朝霞市)

修士 中村佐代子 (富山県高岡市)

修士 日熊 政庚 (埼玉県朝霞市)

修士 大田 恵美子 (東京都大田区)

○新しい会則を配布いたします

全国切り絵作家協会の休会と

切り絵芸術家協会の発足に

ともなう全国切り絵同好会

の会則が変わりました。

切り絵創作の在り方、

資格認定の基準を付して四月

ごろまでに

会員の皆様に配布致します。

○今年よりコンクール作品集は

一冊の配布 となります。

今まで本部会員へのコンクール

作品集は、全国コンクール、

大河コンクール、二輝会と

それぞれの出品数を

無料配布いたしておりましたが

いずれのコンクールに

出品しても一冊に限定して配本

することになりました。

御承知置きねがいます。

全国切り絵芸術家協会の発展を祈って

全国切り絵同好会々長

後藤伸行

第六回切り絵大河コンクールに出品された作品の梱包を解きながら、次々に顔をだす優れた作品に圧倒されました。

主題を決めるために悩み、下絵を描くため苦勞を重ね、刻み込みや仕上げに拍車をかけた作者のエネルギーに胸をうたれました。私どもの同好会が発足して三十年、小紙片に絵描かれた図柄を切り絵に仕上げることから関心を抱き、切り絵の道を探求した人が、二十六回のコンクールと、六回目の大河(大型の作品)コンクールに挑戦することによって、個性ある作品を表現するようになったことに思わず拍手をおりたいとおもいました。

大型作品に挑むことがこんなに表現力を高める事になるのか!六回の入選者に切り絵明星賞を贈り、この希望者をもって切り絵芸術家協会を結成することに切り絵の発展を託することにした、わが切り絵同好会に幸あれ!と祈らざるをえません。

画期的な切り絵芸術協会の発足と展望

わが国に切り絵の技法が中国からもたらされた時期はあきらかではないが、飛鳥時代大平勝宝八年(七五六)東大寺に建てられ正倉院に宝物として残された「人勝残欠」は、よく唐時代の切り絵の水準を示している。

日本に伝えられた切り絵の技法は、お正月の神棚に供え飾られた越後地方の八丁紙や、染織の型紙を作る技法、江戸のまわり灯籠などに生かされたものの、全国的なひろがりはなく地方的な継承にとどまった。

戦後、昭和三十年代に新聞の日曜版に登場した滝平二郎氏の筑波山麓の童の姿を描いた切り絵や、女性美を繊細華麗に鋭く追求した宮田雅之氏の切り絵が人気を博し、各地に創作者を産み大ブームをまきおこした。

日本人の造形についての感覚に、紙を素材とした手軽さが結びついて切り絵愛好者の輪が広汎に広がったといえましよう

全国切り絵同好会では、切り絵を絵画の一分野であるとの認識に立って、創作のあり方を統一し、より高い表現の水準を求め、

全国切り絵コンクール(十二号まで)と切り絵大河コンクール(二十と五十号)を実施してきたのでありますか、

、芸術家協会会員の認定をきちつと六回以上の入選者とさだめたことは全国的にまた歴史的にみて、画期的なことであります。

。学園祭のように、作った作品を自由に展示することには厳しさにかけるものがあり、作者の誕生と成長に好ましい結果を招くものではないとして避けて参りました。

第六回切り絵大河コンクール入選展の展示作品の高い水準をぜひ味わっていただきたいと思っております。

芸術家協会主催の作品展は百景館のみならず、ほかのギャラリーでも展開され、会員の活動もより活発に進むことでありましよう。

薪の残り火のごとく情熱を蓄えて

最近では寒さが強くなって、石油ストーブに加えて薪ストーブを使うことが多くなってきた。焚き付けた時は威勢よく燃えるのであるが、やがてほのほが細くなり、パタリと消えてしまう

然しありがたいことは、しばらく残り火の余熱が部屋をあたためてくれることである。この残り火に薪をいれるとふたたび燃えあがってくれる。

今切り絵についておもえばあの昭和三十年と平成初期にかけてのブームはさつてさびしい思いに駆られる。

しかし新しい人々が切り絵の道をめざしてくれている。私たちは、薪ストーブの残り火のように情熱をこめて日々をあゆまなければならぬ。天から授けられた幸を人々につたえるミッションがあるからです。

